



TITLE:

馬ト人ノ人工受胎術ヲ論ジテ「人口論」ニ及ブ (まるさす生誕百五十年記念号)

AUTHOR(S):

石川, 日出鶴丸

CITATION:

石川, 日出鶴丸. 馬ト人ノ人工受胎術ヲ論ジテ「人口論」ニ及ブ (まるさす生誕百五十年記念号). 經濟論叢 1916, 2(5): 1-18

ISSUE DATE:

1916-05

URL:

<https://doi.org/10.14989/127013>

RIGHT:

馬ト人ノ人工受胎術ヲ論ジテ「人口論」ニ及ブ

醫學博士 石川 日出鶴丸

本年一月三日小川博士余ノ私宅ニ來訪セラレまるさす生誕ヲ記念セン爲メ生理學上ノ講演ヲナサンコトヲ求メラル。余ハ人口論ニ關シテ何等ノ研究ヲ企テタルコトナキヲ以テ切ニ之ヲ固辭セリト雖、法科大學經濟科ニテハ生殖生理學ノ大要ヲ識ル可キ必要アリ現ニ魚類人工孵化法等ノ見學ヲ行フ例アルガ故ニ人口論ヨリ離レテ「人工受胎術」ノ如キ問題ニヨリテ講演ヲナサンコトヲ追求セラル。余ハ同術ハ人口論ト特ニ親密ナル關係アルニ非ラズト信ズルモ之ノ機會ヲ利用シ余ガ專攻ノ學ノ趣味ヲ普及セントメ強テ人口論トノ關聯ヲ求メ此ノ演題ヲ掲ゲタルモノナレハ多少本論ヨリ脱線シタル個處アリ。尚、此ノ稿ニヨリア生理學上ヨリ見タル人口論ヲ知ラント欲セバ到底之ヲ得ベカラズ。讀者乞フ之ヲ諒セヨ。

本稿ニ於テ馬ノ人工受胎術ニ關スル部ハ主ニ我が教室ノ研究事項ヲ基礎トシテ立論セルモ此他ノ事項ハ單ニ先輩ノ研究ヲ受養セルノミ。乞フ、一種ノ綜合抄録トシテ觀過セラレンコトナ。

緒 論

まるさす人口論ハ人ノ色慾ト食慾トノ相互關係ヨリ立論シ人ノ生産力ト土地ノ生活資料ノ生産力ヲ比較シ人口ノ生産ハ結局、土地ノ生産ニヨリテ制限セラレ自ラ諸種ノ社會問題・經濟問題ヲ將來スルコトヲ斷定シ之ガ救済法ヲ講ジタルモノナリ。新まるさす主義モ、亦之ト主旨ヲ同フスルモノトス。

人ノ生殖力ハ年齢・體格・氣質・生活狀態・職業・嗜好品等ニヨリ差異アルノミナラズ四季・氣候・

營養等ニヨリテモ亦大ニ左右セラルルモノナリ。四季ヲ通ジテハ春季最意義アリ。氣候ニ關シテハ華氏一度上昇スル毎ニ六%ノ受胎率ノ増加ヲ見ル(Engelke)。但シ以上諸種ノ條件中最重要ナルハ營養ナリトス。思フニ以上各種條件ニ關スル諸家ノ統計的研究成績ハ一部他ノ方面ヨリ説明シ得ザルニ非ラザルモ多クハ營養狀態ノ如何ニヨリテ容易ニ説明シ得ベシ。營養ガ生殖ニ關係アルトハ Darwin 等ノ既ニ就知セルトコロニシテ、例ヘバ家猫ハ野猫ヨリモ繁殖率大ニシテ、家鴨ハ野鴨ヨリ繁殖力ノ大ナルガ如シ。但、精確ナル斷言ヲ憚カルモ、野馬ハ蓄馬ヨリ却テ繁殖力大ニシテ一頭ノ牡馬ガ數十頭ノ牝馬ヲ引卒シ受胎率殆ド一〇〇%ニ垂トスル好成績ヲ示スコト多シ。斯ノ如キハ原野肥沃ニシテ雜草ノ繁殖好良ナルト、運動・日光・空氣等ノ好良ナルガ爲メニ精力ヲ増加スルコト大ナルガ爲メナラン。營養狀態ガ精虫ノ活力ニ對シテ重大ナル意義アルコトハ精虫生理學研究家ノ驚歎スルトコロニシテ、例令、白鼠ノ精虫ヲ採取スルニ際シ最モ注意ヲ要スルコトハ年齡ト營養狀態ナリトス。年齡ハ勿論春情發動期以後ニシテ、然モ其ノ成熟セルモノ一層可ナリ。余ノ實驗例ニヨレハ、營養ハ體重百四五十瓦以下ノ白鼠ハ老幼ニ關セズ精虫ノ運動微弱ニシテ多クハ全ク運動ヲ營ムコトナク、體重二百瓦以上ノモノニテハ精虫ノ運動多クハ活潑ナリ。體重二百瓦以下ノモノニテモ營養好良ナルモノニ於テハ亦然リ。生米ヲ以テ飼育セルモノハ精虫ノ運動不良ニシテ、熟米ヲ以テ飼育セルモノハ精虫活潑ナリ。圓滿ニ發達セル白鼠ノ精虫ハ、孳尾期ニ非ズト雖モ四季ヲ通ジテ活潑ニ運動スルモノトス。馬匹ノ精虫ノ活力ニ關シテモ營養好良ナルモノハ其ノ成績好良ナリ。卵子ノ發育ニ關シテモ同様ノ影響アリ。從テ營養ト受胎率トハ互ニ同一

方向ニ増減スルモノト斷言シテ可ナラン。

土地ノ生産ト人口數トノ比例ヲ失スレハ一面ニ於テ人口受胎率ヲ減少ス可ク他面ニ於テ食料ノ不足等ヨリ發育及ビ生存ヲ障害シ、結局人口ノ生産ハ土地ノ生産ニヨリテ制限セララルハ思フニ疑ノ餘地ナシト信ゼラル。

但、茲ニ余ノ説カントスルハ人口論ニ對シテ生理學上ノ批評ヲ試ンガ爲ナラズ。『人工受胎術』ノ説明ヲ主眼トシ、強ヒテ同術ト人口論トノ關係ヲ求メテ巨聖なるさすニ敬意ヲ表シ、斯ノ如キ比較的ニ該論ト緣故少キ生殖生理學上ノ一事項ト雖モ、其ノ術式ノ發達ノ如何ニヨリテハ多少注意スルニ足ル可キ影響アルコトヲ論ジ、人口論ト他ノ關係多キ事項トノ關係ヲ諸君ノ想像ニ一任シ、生殖生理學ト人口論トノ關係ノ密接ナルコトヲ理解セシメント欲スルカ爲ナリ。

本 論

本論ハ三章ヨリナル。第一・馬ノ人工受胎術、第二・人ノ人工受胎術、第三・人工受胎術ノ受胎率即之ナリ。

第一章 馬ノ人工受胎術

先ヅ馬ノ人工受胎術ノ字義ノ説明ヲ了リ、次ニ其術式ノ大要ヲ説明スベシ。

馬ノ運輸機關ニシテ其ノ走力・牽引力及ビ負擔力ノ發達ノ如何ニヨリテ之ヲ騎馬・挽馬・駄馬

ニ大別ス。古昔ニ在リテハ唯一ノ運輸機關ナリシガ今日ニテハ鐵道・自動車等ノ利用盛大トナリ馬ノ必要ノ一部ヲ殺グニ到レリ。サレド之等文明的運輸機關ノ發達ト共ニ、其ノ補助機關トシテ馬ノ必要ヲ増加シ、日一日トシテ需要ノ上ルヲ見ル。然モ馬ノ性質從順伶俐ニシテ自ラ忠僕ヲ以テ任ジ主人ニ對スル愛情甚ダ濃厚ナリ。之ノ他或ハ騎乗用トナリ、或ハ耕作用トナリ、人生ヲ裨益スルコト少カラズト雖モ然モ軍馬トシテノ必要ニ及ブ可クモ非ラズ。軍馬ノ獨立ハ軍國ノ一大事ニシテ、世界ニ覇ヲ唱ヘントスルモノハ軍馬ノ改良ヲ一日モ苟ニスルヲ許サズ。馬匹數ノ最大ナルハ露國ニシテ、英獨佛之ニ次ギ、改良ノ結果一頭五十萬圓ヲ超ユルモノヲ產出スルニ到レリ。本邦ニ於テハ馬匹總數約百五十萬頭ニシテ、馬政局ノ事業トシテ三十年計畫ヲ立テ、天然受胎ニヨリテ馬匹ノ改良ヲ謀リ國有種牡馬ノ定數ヲ充實シ馬匹ノ完成ヲ期セリ、(馬匹改良法ハ直チニ之ヲ人ニ移セハ理想的ノ優種學トナル可シ)。此ノ計畫發表セラレテヨリ日淺シト雖モ、當局者ノ努力其ノ宜シキヲ得テ、本邦ノ馬匹ノ改革成績ハ萬人ノ認メテ疑ハザルトコロナリトス。

受胎。精虫ト卵子ト會合シテ細胞分裂ノ能力ヲ有スルニ到レハ之ヲ受胎トイフ。精虫ハ睾丸ニテ形成セラレ卵子ハ卵巢ニテ成熟ス。受胎ハ體外ニテ行ハルモノト、體內ニテ行ハルモノトアリ。例之、魚類ニ有リテハ雌來リテ產卵スレハ雄モ亦來リテ精液ヲ放散シ、卵子及ビ精虫ハ水中ニテ相會合スルモノトス。之ニ反シテ、哺乳動物ニテハ精虫ハ射精後自ラ移動シテ子宮・喇叭管ニ到リ、茲ニ於テ卵巢ヨリ下降シ來タレル卵子ト會合シ、子宮壁ニ居在シ分裂發育シ遂ニ出產スルモノトス。但シ精虫ト卵子トノ會合ハ外觀的ニ偶然ノ出來ノ如シト雖モ、一種ノ力アリテ卵

子ハ精虫ヲ自個ノ周圍ニ招來シ、一個ノ精虫ノ外ハ他ノ精虫ノ自家體內ニ穿入スルヲ許サザルモノナリ。此ノ招來方ハ神秘不可思議ノ力ニ非ラスシテ、現今ノ生理學上ノ解釋ニヨレハ純然タル物理化學上ノ力タルコト殆ド疑ナシ。之ヲ向刺激性トイフ。少クトモ精虫ノ運動方向ヲ決定スルモノハ比較的簡單ナル物理學的又ハ化學的影響ナルガ如シ。

天工ト人工ト。物心ハ恐ラク一元ニシテ、宇宙ノ現象ハ直接又ハ間接ニ悉ク物質界ノ現象ニ歸スルコトヲ得可シ。物質界ハ物質及ビ勢力不滅ノ規則ニヨリテ司宰セラルルモノナレハ、之ノ世界ノ現象ハ不増不減ニシテ、單ニ甲ノ調和狀態ヨリ乙ノ調和狀態ニ移レルニ過ギズ。之ノ一方一物ヲ増減スルコトナクシテ調和狀態ヲ變更セシムル條件ヲ我が生理學ニテハ刺激ト名付ク。刺激ハ因果律ヨリ見ル時ハ、誘因又ハ近因ト見做ス可キモノナレドモ、Vervornノ門下生トシテ條件元因說ノ旗色ヲ鮮明トセル余ニ在リテハ、刺激トハ生活現象ノ諸條件(即、生活條件)ノ變化ナリト絶叫セザルヲ得ズ。

生活條件及ビ其ノ變化ノ研究ノ進ムニ從ヒ精虫ノ運動ヲ決定ス可キ刺激ノ性質益々明瞭トナルニ到レリ。之ノ天然受胎ノ現象明瞭トナルニ到レハ、一面ニ於テハ卵子精虫ノ會合ヲ妨グ可キ諸般ノ障害ヲ除キ、他面ニ於テハ其ノ會合ヲ促進ス可キ適度ノ條件ヲ發見スレハ、受胎率ノ増進スベキヤ必然ノ理ナリトス。即、人工ハ天工ヲ補佐スルモノニシテ、之ニ「えねるぎ」ヲ注入スルヨリモ、寧ロ刺激トシテ作用シテ驚歎ス可キ人生上ノ結果ヲ生ズルモノナリトス。

世間往々ニシテ天然力ノ威大ナルニ驚キ、人力ヲ蔑視シ、施ス可キ術策ヲ講セザルモノアリ。

但、人力ノ刺戟トシテ作用シ、以テ天然ノ大ヲ征服シ得ルノ理ヲ解セハ、學術ノ權威ノ宏大無邊ナルヲ識リ得ベシ。サレド更ニ之ヲ大觀スレハ天然力以外ニ獨立セル人力ノ存スルニ在ラズシテ人力モ亦、一種ノ天然力タルコトヲ悟ルヲ得ン。

馬ノ人工受胎術^① 以上、馬ノ人工受胎術ニ關スル字義ヲ説明シ了セリ。却說、馬ノ人工受胎術トハ人工ヲ以テ天工ヲ補佐シ馬匹ヲシテ受胎セシムルノ術ニシテ、人工受胎術トハ artificial fecundation 又ハ künstliche Befruchtung ヲ譯セルモノニシテ我ガ馬政局ニテハ馬籍調査ノ必要上簡明ナル文字ヲ撰ビ授精術ト命名セリ。植物及ビ魚類ノ授精術又ハ人工孵化法ハ古昔ヨリ實用ニ使用セラレタルモ、温血動物ニ於テ實用ニ試ミラレタルハ露國學者「van der Hoeve」ノ研究以後ナリトス。いわのふノ術式ハ一九一〇年ニ公表セラレ、其後我ガ京大生理學教室ノ研究ニヨリテ更ニ改良セラレ受胎率ヲ増加シタルノミナラズ、遂ニ精虫ヲ遠距離ニ輸送シ遠隔ノ地ニアル發情馬ニ受胎セシメ然カモ經濟上有利ナル結果ヲ得ルニ到レリ。今いわのふ氏ノ術式及ビ我ガ教室ノ改良法及ビ精虫輸送試驗ノ大要ヲ説明セント欲ス。

いわのふ氏術式^② 先ヅ發情セル牝馬ノ陰腔内ニ深ク無菌的綿綿ヲ插入シ置キ次ニ之ニ種牡馬ヲ配シ射出セル精液ヲ此綿綿ニ吸收セシメ、之ヲ取り出シ壓搾器ニテ精液ヲ搾り取り。斯クシテ得タル精液ヲ特種ノ護膜管消息子ト注射器トニ由リリチ牝馬子宮内ニ注射スルモノトス。綿綿ハ約二拳大、彈力完全ニシテ組織緻密ナルモノヲ撰ビ清水ニテ善ク洗ヒ夾雜物ヲ除去シ、一%曹達液ニテ攝氏七十度ニテ二十乃至三十分間消毒シ曹達水ヲ搾出シ、一%食鹽水ニテヨク洗滌シ液ヲ搾

出シタルモノヲ使用ス。

京大生理教室改良法 海綿ハ稀鹽酸ニ暫時浸漬シ石灰質ヲ去リ、次ニ清水ニテ洗滌搾出之ヲ數

回反覆シ、清水ニテ二十分間煮沸シ、次ニ二乃至三回一〇%蔗糖水又ハ五・二五%葡萄糖ニテ洗滌シタルモノヲ使用ス。腔内ノ洗滌ハ極丁寧ニ行ヒ、精虫ノ直射日光ヲ忌ム。精液ハ五・二五%葡萄糖水ニテ三倍ニ稀釋スルモノトス。之ノ他ハいわのふ氏式ニ從フモノトス。

精液遠距離輸送法(京大新研究) 種牡馬又ハ牝馬ヲ運送スルコトナリ。單ニ精液ヲ輸送シ遠距

離ニアル牝馬ニ人工受胎術ヲ行ヒ成功スルヲ得バ國家經濟ヲ利スルコト大ナルハ一見明瞭ナルトコロナリトス。余不敏ニテ文献ヲ徵スルモ未、コノ種ノ研究ノ企テラレタルヲ聞カズ。幸ニ我が教室ニ於テ世界最初ノ研究ヲ企テ稍、經濟的ニ成功スルヲ得タルヲ以テ左ニ其、大要ヲ掲ゲン。

(此ノ研究報告ハ未發表セザルモノニシテ本會ニ於テ初テ其大要ヲ論述スルヲ得タルハ余ノ光榮トスルトコロナリ)。

精液遠距離輸送ハ精虫ノ體外生活持續期ヲ延長スル方法ト大關係アリ。精虫ヲ體外ニ長時間生存セシムルコトヲ得レバ又從ツテ精虫ヲ遠距離ニ輸送シ得可シ。コノ生續期延長方法ハ古來多數ノ學者ニヨリテ研究セラレシモ、既ニ發表セシ如ク我が教室ノ越智醫學士及ビ佐藤獸醫學士ノ研究ニヨリテ一躍シテ生續期ヲ數倍ニ延長シ得ルニ到レリ。即、馬ノ精虫ハ平温ニ於テ一・一%食鹽水ニテハ數時間乃至多クモ十數時間生活シ得ルニ留マルモ、五・二一五・二五%葡萄糖液ニテハ十數時間乃至七十時間モ生續セシメ得可シ。空氣内ノ酸素ハ馬ノ精虫ニ對シテハ多キニ過ギ、生續時間ヲ短縮スルヲ以テ約半量以下ニ減少スルヲ可トス。

精液ハ五・二五%葡萄糖液ヲ以テ三乃至四倍ニ稀釋シ試験管ニ入レ封栓シ、魔法瓶内ノ微温湯ニ挿入シ温度ヲ十四乃至十六度ニナシ、日光ヲ遮斷シ、之ヲ遠距離ニ運搬スルモノトス。

昨年初メテ運送試験ヲ行ヒ奥羽種馬牧場ヨリ馬車ヲ驅リ、凹凸セル道路ヲ走シリ、野ヲ過ギ町ヲ通り、山ヲ上リ坂ヲ下リ、四時間位ニテ三本木町ニ到リ、豫メ招集セル牝馬ノ検査ヲ行ヒ、人工受胎法ヲ施セリ。其ノ後數回之ヲ反覆シ數十頭ノ馬匹ニ於テ一回種附ニヨリテ約三〇乃至四〇%ノ受胎率ヲ得タリ。三〇乃至四〇%ノ受胎率ハ民間ノ天然種附^{ダブツケ}ノ受胎率ニ比スレバ好良ノ結果ニシテ十分ニ經濟的價值アルコトヲ發見セリ。

精虫遠距離輸送ハ今年再、幾多ノ研究ヲ行ヒ、更ニ其ノ價值ヲ増進セシメタル後チ民間ニ實施セシメント欲スルモ人工受胎ハ今年ヨリ弘ク本邦種馬場ニ行ハルルコトニ決定セリ。

第二章 人ノ人工受胎術

卵子ト精虫トヲ「レトルト」内ニ會合セシメ之レヲ育養シテ人間ヲ製造セントスル企圖ハ、Homunculus in der Retorte トシテ奇矯の研究ノ代名詞ノ如ク蔑視セラレタリト雖モ、以前ヨリ多少研究ヲ企テラレ自今コノ目的ニ對シテ一步ヲ進ムルニ到レリ。之、即、人工受胎法ニシテ、之ヲ大別シテ陰腔式及ビ子宮式トナシ、子宮式ヲ更ニ分類シテ注射法・粘注法・吹注法等ニ細別ス。皆、手淫及ビ交接等ニヨリテ射精シタル精液ヲ採取シ、特種ノ方法ニヨリテ之ヲ腔又ハ子宮内ニ送入シ受胎セシムル術式ナリトス。之等術式ハ古昔ヨリ行ハンタリト雖モ、道德上及ビ宗教上ノ壓迫

ヲ受ケテ進歩スルコトナク、最近いわのふガ馬匹ニ於テ經濟的ニ成功セル以來、即五六年前ヨリ一時ニ世界ノ耳目ヲ聳動シ、其研究ニ一新面目ヲ促スニ到レルモノナリ。之ヨリサキ、同術式ハ好事者ノ研究ニ一任セラレタルモ、諸方面ヨリ研究ノ旺盛ナラントスルニ際シ、期年ヲ出デズシテ世界的大戰亂ノ影響ヲ受ケ目下一時研究中止ノ狀態ニ在リ。

今、諸種ノ文獻ニ於テ法律上ノ問題トナレルモノヲ徵センニ刑事上又ハ民事上ノ問題トナリシモノ開闢以來少クトモ二個ノ實例アリ。コノ他最近外國新聞紙ニ喧傳セラレタル一例ヲ暗記スルモ事實ノ確否ヲ明ニセザルヲ以テ之ヲ略セリ。斯ノ如キハ法醫學上ノ問題トシテハ多少注意ヲ惹クヲ得ンモ、我ガ法科ノ諸兄ニ對シテハ低級趣味タルニ過ギザルベケレバ左ニ其大略ヲ掲グルニ止メント欲ス。

第一例 一八八四年佛國ほるどーノ法廷ニ起レル訴訟事件ニシテ、某醫師ガ一婦人ニ人工受胎術ヲ施シタル手術料ヲ仕拂ハザリシヲ以テ、之ガ請求ヲナセルモノナリ。裁判々決ニヨレハ、人工受胎術ニ關スル法律上ノ明文ナキト、且斯ノ如キ法術ハ天然ノ事理ニ悖ドリ社會ノ危險ヲ引起スヲ以テ、手術料ヲ請求スルヲ得ズトイフ。

第二例 獨國ノ *Mischdorf* ニ一八九八年以來同様セル一夫婦アリ。一九〇四年一女子ヲ産メリ。但、男子ハ法律上ノ同様期ニ於テ交接不能ナリシヲ以テ、一九〇四年十二月之ヲこぶれんツ法廷ニ訴ヒ親權ヲ認メ難シト主張セシモ、婦人ハ男子ノ遺精セル精液ヲ寢床ノ布片ヨリ採取シ自之ヲ腔内ニ送入シ受胎セルモノナレハ、夫婦關係ニヨリテ出産セル適法ノ子女ナリト反抗セリ。

ばん大學ノ法醫學上ノ解釋可否ニ分レ、法廷ハコノ訴訟ヲ却下セルモ、一九〇五年十一月更ニきよるん、法廷ニ上告セシモ再破棄セラレ、更ニらいぶちつひ法廷ニ上告セシニ、一九〇八年六月四日前條ノ判決ヲ否定シ男ノ勝訴トナルニ到レリ。此訴訟中、法醫學上ノ興味アル論文數種現ハレタルモ、就中次ノ二者ノ説最モ傾聽ス可シ。

一ハ法律家ノ説ニシテ、伯林ノ Ohlhausen (Gerichtsassessor) ノ言フトコロニヨレハ、妻ガ夫ノ不知不識裡ニ人工受胎セリトイフモ、同術ノ成功スベキヤ否ヤ大ニ疑ハシク、若シ成功シ得ズトスレハ無論男子ノ勝訴タル可ク、若一步ヲ譲リテ可能ナリトセシモ現今學者ノ説ヲ傾聽スルニ或ハ可能ナリトナシ、或ハ不可能ナリトナシ、諸説一定セザルヲ以テ、思ニ之ハ目下研究中ノ問題ニシテ實際上ノ問題トナシ難ク、然モ夫婦關係ノ尊嚴ヲ害スルコト甚大ナリ。サレバ婦人ノ言ニ傾聽スルヲ得ズ。獨逸民法一五九一條ニ正當ナル解釋ヲ施コセバ、適法ノ子女ヲ得ルニハ夫婦同衾シ両者ノ生殖器ノ會合スルコトヲ必要トシ、第一項第二目ハ之ヲ前提トシテ起レル規程ニシテ、例令、出生兒ノ人種ノ相異・發育程度ノ鑑定等ニヨリ反證ヲ學ゲ得ル場合ニ限レリ。此事件ニテハ交接ヲ行ハザリシヲ以テ適法ノ出生兒ト認ムルヲ得ズト。

一ハ醫家ノ説ニシテ、Schwalbe (産婦人科) ノイフトコロニヨレハ、學理上ヨリ論ズレハ親子ノ關係ハ交接ノ有無ニヨリテ成立スルニアラズ。胎生學上、夫ノ精虫ト妻ノ卵子ト會合スルコトヲ必要ノ不可缺條件トナス可シト。コレ某々諸家ノ所説ト投合スルトコロニシテ、即、第一項第二目ハ第一目ヨリ分チテ獨立ニ解釋ス可キモノニシテ、此規程ニヨレハ、妻カ夫ヨリ出生兒ヲ

受胎セルコト全々不可能ナルコトヲ證明シ得ル場合ニハ、出生兒ハ適法ト認ムルヲ得ズト云フニ在リ。此際人工受胎術ニヨリテ、受胎ノ不可能ナルコトヲ立證シ得ザルヲ以テ、從テ出生兒ヲ不適法ナリト斷定スルヲ得ズト。

之ヲ要スルニ、現今ノ狀態ニテハ、人工受胎術ノ可能ナルハ明瞭ナル可シト雖モ、如何ナル場合ニ可能ニシテ、如何ナル場合ニ不可能ナルカ、其ノ條件ノ研究ノ試ミラレタルモノナク、況ヤ箇々ノ場合ニ於ケル人工受胎術ノ成功率ノ如キハ全々不明ナリトイフ可ク、假ニコノ研究進歩シテ某々ノ場合ニハ必ズ受胎スベシト斷言シ得タリトセンモ、男子ノ意志ニ反シ或ハソノ識ラザル間ニ、人工ヲ以テ受胎シタルモノハ、男子ニ於テ親權ヲ形成セザル可ク、且婦人ガ人工的ニ受胎セリトイフハ虚偽ノ言ニシテ、ソノ實、姦通タルヤモ圖リ難シ。コノ故ニ、法律家ノイフガ如ク、人工受胎術ハ法醫學上可能ナリトセンモ、法律上ノ解釋ハ全々別途ヨリ立論シテ可ナリトイフベシ。

尙、Rollerハ彼ノ著書ニ於テ種々ノ法律上ノ問題ガ今後擧出ス可キコトヲ虚リ、種々ノ興味アル問題ヲ假想シ之ヲ論述セリ。例之、夫ノ精虫ヲ妻女ニ注入シ人工受胎術ヲ行フニ當リ、男子又ハ女子ノ孰レカノ意志ニ反シ・或ハ意識セザル間ニ之ヲ決行スル場合、或ハ兩者ノ意志ニ反シ・又ハ意識セザル間ニ行フ場合、又ハ兩者ノ意志ニ從フテ行フ場合・或ハ夫ノ精虫ヲ以テセズシテ他人ノ精虫ヲ以テスル時夫婦ノ何レカ一人・又ハ兩人共ノ意志ニ反シ・又ハ意志ニ從ヒテ之ヲ行フ場合等ニ於テ、其ノ男子及ビ婦人・出生兒及醫師ニ關スルノ法律上ノ解釋ナリトス。氏ハ單ニ法律上ヨリ見タル出生兒ノ解釋ト醫師ノ注意ス可キ諸點ヲ擧ゲタルノミニシテ一々刑法上ノ意見ヲ記載セザルモ、姦通罪ヲ人工受胎法ヨリ見タル解釋ニ關シテ、余竊ニ思ヘタク、姦通ハ交接ニヨリテ成立スルモノナランニハ、若 Ohlhaasen ノイフ如ク、男女生殖器官會合セズシテ妊娠セル場合ニ、法律上ノ明文ニ照シテ出生兒ヲ適法ナリトナシ得ザランカ、醫師ハ人工受胎法ヲ強行セハ或ハ猥褻罪ヲ成立センモ強姦罪

ヲ成立スルコトナク、然モソノ結果迄モ強姦ト異ナラザル矛盾ヲ生ズ可シ。

文獻上、他人ノ精虫ヲ以テ人工受胎法ヲ行ヒタル實例一ト、婦人ガ之ヲ行ハンコトヲ請求セルモ行ハザリシ實例二ツアリ。後ノ二例ハ共ニ伊太利ニ起リタルモノニシテ、婦人ハ初、自己ノ夫ノ精虫ヲ以テ人工受胎術ノ實施ヲ乞ヘルモ、ソノ成績不結果ナリシ爲メ、夫ノ精虫ノ健全ヲ疑ヒ、他ノ壯健ナル男子ノ精液ノ注射ヲ乞ヒタルモノナリ (Senole, Moregas)。先ノ一例ハ獨逸ニ於テ行ハレ、男子ハ老齡ニ過ギ交接不能ナルヲ以テ、夫婦ノ合意上、寧ろ他人ノ子ヲ養子トスルヨリモ半分タリトモ實子ニ近キ子女ヲ得テ之ヲ養子トナサン爲メ、第三者ノ精虫ヲ實際ニ注射セルモノナリ。但、受胎スルヲ得ザリキ (Schwalbe)。即、人工的ニ受胎セル子女ヲ種々ノ理由ニヨリテ適法ト認メ得ザル際ニハ、結局養子トシテ採用スレハ初テ親權ヲ成立シ得可シ。

以上、説クトコロニヨリ人工受胎術ト法律トノ關係ノ大體ヲ説了セリト見做シテ可ナラン。此他諸種ノ必要ナル事項ハ茲ニ要ナキヲ以テ悉ク省略スベシ。

第二章 人工受胎術ノ受胎率

人工受胎術ノ受胎率ハ馬ニ於テハ天然受胎受胎率ヲ超過スルコト遙ニ大ニシテ、天工ニヨル民有牝馬受胎率ハ數回ノ交接ヲ行ハシメタルトキ四〇%位ノ成功ヲ得ルモ、余等ノ人工實驗ニヨル一回種附^{メイトツク}ニテハ四十五%ノ成效ヲ得タリ。數回人工的ニ種附^{メイトツク}ヲ行ヒハ、更ニ二十%ヲ増加シ得ルコト容易ナリト信ズ。遠距離輸送ニヨリテモ蔑視スベカラザル成績一回種附ニテ(三〇乃至四〇%)ヲ得タリ。

同術ヲ人ニ試ミテ多大ノ成效ヲ得レハ人生問題ノ一大事ナル可シ。幾多ノ道德問題・法律問題・宗教上ノ解釋・風俗習慣等ニ關シ重要ナル問題ヲ續出スベシト雖モ、目今尙ホ研究中ニシテ世界

大戰亂中一時屏息セル研究ガ一大飛躍ヲ試ムル時機ヲ俟タザル可カラズ。現時、人ノ人工受胎術ニ關シテ文献ノ徵ス可キモノ總計八十二例アリ。即、左表ニ示スガ如シ。

術式	報告者	實驗人數	成功數	摘	要	
陰腔式	Hunter Lesueur Kehrer Fuhringer Eustache	一例 一例 一例 一例 一例	一例 一例 一例 一例 一例	各々其ノ成功セル一例ヲ報告シ。失敗ニ了リタル實例ヲ掲ゲズ。即チ陰腔式ニテモ受胎シ得トイフニ止マル。		
子宮式	Girault Marion Sims Gigon L'ainé P. Müller B. Leyy Kisch Schwalbe Lutaud Bossi Mensinga Fritsch Rohleder Döderlein	一〇例 六例 一例 二例 二例 二例 二例 二六例 二六例 三例 一例 一例 六例 六例	* 八例 一例 一例 〇 〇 〇 〇 四例 * 九例 * 一例 〇 一例 一例			
總計		八十二例	三十一例			成功率 三七・八%

此ノ表中 Döderlein ノ報告ハ最近ノ發表ニヨルモノニシテ、以外ノ實例ハ Rohleder ガ己ガ著書中ニ綜合抄録セルモノナリ。Rohleder 及 Döderlein ノ報告ハ、Jwanoff 氏ノ馬匹ニ於ケル成

論 說 (ハ)

馬ト人ノ人工受胎術ヲ論ジテ「人口論」ニ及ブ

一三

第二卷

第五號

功ヲ驚歎シテソノ研究ヲ開始セルモノトス。

以上八十二例中三十一例、即、約三八%ノ成功率ハ寧、報告ノ性質上、陰腔式ノ例證ヲ除ゾキテ計算スルヲ至當ナリトス。即、子宮式七十七例中二十六例成功セルモノニシテ、二三・七%即、ヲ全數ノ三分ノ一ガ成功セルモノナリ。但、表中ノ成功率ノ最大ナル報告、即*印ヲ附セルモノヲ省略スレハ五十七例中八例即、一五・一%ノ成功率ニシテ、大約六人ニ一名弱ノ成功ヲ見タル比例ナリ。余ノ特ニ*印ヲ省略セルハ、一般ノ報告ニハ往々%數ヲ誇大スル疑アルヲ以テ、萬一メコトヲ慮レルガ故ナリ。思ニ、六分ノ一弱ノ成功ヲ以テ確實ナリトナサンモ、尙一層ノ注意ヲ拂ヒ、現今ノ狀態ニテハ一〇%以上ノ成功率、即十人ニ一人以上ノ成功ヲ見得ベキモノト信ズレハ過失少ナカラン。

但、以上諸種ノ實例ハ、疾病ソノ他ノ事故ニヨリテ、醫家モ被術者モ不妊症ト診斷シタルモノニ於テ、適當ノ所置ヲ施コシテ之ニ人工受胎術ヲ行ヒシモノニシテ、術式ノ實施ハ多クトモ同一人ニ於テ五六回反覆シ、好結果ヲ得ザレバ之ヲ放棄セルモノナリ。故ニ、天然受胎ニ比シテ、受胎率ノ少ナキハ寧、當然ナリトイフ可シ。サレド、實驗度數ヲ増加シ、且、人工受胎術ニ適當ノ改良ヲ施セバ、著ク成功率ヲ増加ス可キヤ明瞭ニシテ、現ニ馬匹ニ於テハ人工受胎法ヲ超加シ頗ル有利ノ結果ヲ生メルニ非ラズヤ。人ノ天然受胎率ハ九〇%位ナルヲ以テ少クトモ同法改良ノ結果、コノ%數ニ到達シ得ベシト信ズルモノナリ。

結 論

茲ニ於テ、余ハ馬ノ人工受胎術ヨリ轉ジテ、人ノ人工受胎術ノ大要ヲ論ジ了レリトイフ可シ。但、まるさすノ人口論ト強ヒテ關係ヲ求メント欲セハ、人ノ人工受胎率ノ受胎術ト人ノ天然交接受胎ニヨル不妊症ノ百分率トヲ比較スルコトヲ要ス。

Rohleder ニヨレハ、不妊夫婦ハ結婚總數ノ一〇%ニ匹敵セリトイフ。但シ條件ニヨリテハ之ノ數ガ二倍ニ増加スルコトナキニアラズ。Göhler ハ專制國ニテハ一三・七%、獨逸ノ名門ノ家庭ニテハ二〇・五%ノ不妊數アリ、Duncan ハえぢんばら及ビぐらすビノ官吏ノ家族ニテハ一六・〇%ノ不妊症アリトイフ。之ノ他 Simpson ノ統計ハ八・五% Prochowick ノ統計ハ九・一%ヲ計算シ、平均十對ノ夫婦中一對ノ不妊ヲ發見スル割合ナリ。

不妊ノ原因ハ獨リ婦人ニアリト限ラレタルニ非ラズ。勿論婦人ニ在リテハ生殖器ノ諸種ノ炎症。腫瘍等ノ外、各種ノ婦人科病、例バ生殖器發育不完全・位置ノ異常等主因ニシテ此ノ内人工受胎法ヲ施シ得ベキモノト得可カラザルモノアリ。尙交接道ノ狹小ナルト子宮口ノ狹隘ニ失スル爲メ妊娠シ得ザルコトアリ。斯ノ如キハ理學的療法・器械的療法・溫泉療法・外科療法・子宮位置正復術等ニヨリテ一部之ヲ除去スルヲ得ベシ。コノ故ニ眞ノ石女ハソノ數少カル可シ。尙、石女ノ大多數ハソノ不妊ノ原因ハ男子ニ在ルモノニシテ、諸種ノ脊髓疾患・生殖器病・又ハ勃起不全・早漏等ノ外、假ニ交接可能ナルトモ、精虫ノ疾患 Oligospermic, Azospermic, Nekrosparmic ニヨリテ受胎

不可能トナルニ到ル可シ。コノ故ニ普通不妊ヲ醫師ニ訴ヒ來ル夫婦ニ於テハ、諸種ノ關係上、先、男子ノ健康診斷ヲ行ヒ、然ル後、婦人ノ診斷ニ移ルヲ以テ最當ヲ得タル方法ナリトス。コノ内、精虫ノ疾患ニヨラズシテ不妊ヲ訴フル場合ニ限リ人工受胎術ヲ實施スルヲ得ベク、尙、精虫ノ疾患ニ際シテモ第三者ノ精虫ヲ使用スレハ同術ヲ施行シ得ベシ。

今、假ニ不妊ノ殆ンド全數ガ男子ノ責任ナリト假定シ、之ニ悉。人工受胎術ヲ行ヒタリトスレハ、結局一〇%ニ對スル一〇%ノ成効率ヲ得可ク、即、漸、夫婦百對中一對ノ不妊ヲ除キ得ルニ過ギザルベシ。

但、今後同法ノ成効率ハ九〇%ヲ得ルコト可能ナルヲ以テ、近キ將來ニ於テモシ同法ヲ完全ニ實施スルヲ得バ、夫婦百對ニ對スル十對ノ不妊者中七乃至八對ノ不妊ヲ治シ、世界ノ不妊率ヲ二一三%ニ減少スルニ到ルヤ必セリ。

斯テ、現今又ハ近キ將來ニ於テ、人口繁殖ニ及ス人工受胎法ノ影響、殊ニ國家經濟ニ及ス影響ハ比較的ニ僅少ナルモ、人口問題ニ特種ノ關係アル佛・獨・英・米等、殊ニ佛ニ在リテハ特別ノ意義ナキニアラス。一二先輩ノ醫學者ニシテ之ニ論及シ一轉シテ新まるさす主義トノ關係ヲ論セルモノナキニ非ラスト雖、余ハまるさす研究者ニ非ラサルヲ以テ故ラニ口ヲ箝シテ何等ノ批評ヲ試ミサル可シ。余ハ、茲ハ、單ニ人工受胎術ヲ以テスレハ現今ノ不妊率一〇%ヲ九%ニ、人工受胎術ノ完成スル近キ將來ニハ不妊率一〇%ヲ二乃至三%ニ減少シ得ルコトノ可能ト、若、該術ヲ廣ク妊・不妊全體ノ夫婦ニ應用スルヲ得ハ、個人ノ受胎度數ヲ増加シ著シク人口ノ繁殖速度ヲ高メ

得ルコトヲ、注意スルニ止メント欲ス。

之ヲ要スルニ、醫師ハ生理學ノ教フルトコロニヨリ、天然受胎ヲ人工ニヨリテ補助シテ其能率ヲ高メ得ルノミナラス、諸種ノ生殖器官ヲ治療シテ受胎率ヲ高メ、更ニ出産ヲ補助シテ出産ニ際スル初生兒ノ死亡ヲ防セキ、然カモ各科専門醫家ノ努力ニヨリテ人ノ疾病ヲ豫防又ハ治療シ、個人又ハ公衆衛生ニ注意シ人口ノ増加ヲ甚シク急劇ナラシメ、之カ爲ニ人口論ノ法則ニ支配セラハ可キ幾多ノ現象ヲ生ズルニ到ルモノトス。但、他方ニ於テハ人口問題ヲ救済ス可キ幾多ノ方法モ亦、生理學及・生理學的心理學ヲ根據トシテ案出セラレタルモノニシテ、諸種ノ消極的又ハ積極的避妊術ハ實ニ斯學ノ餘澤ニヨルモノトス。避妊術ニ數多ノ方法アリト雖モ、種々ノ方法ヲ用キテ色慾ヲ抑制スルカ、或ハ色慾ヲ抑制スルコトナクモ・或ハ寧ろ色慾ヲ自然ニ放置シテ之ヲ満足セシムルトモ・特種ノ方法ニヨリ直接又ハ間接ニ精虫・卵子ノ發育ヲ粗害シ、或ハ精虫ト卵子トノ會合ヲ妨ケ、甚タシキニ到リテハ、墮胎術ヲ應用シテ人口ノ減少ヲ圖ルカ如キ之ナリトス。結局スルトコロ、まるさす人口論ハ、生理學ノ法則ヨリ起リ、經濟學上ノ見地ヨリ一轉化セル學說ナリトイフベシ。

要點摘錄

一。人工受胎ハ可能ニシテ馬匹ニ於ハイワのふノ研究ニヨリテ經濟上有利ノ術式トナリ、更ニ京大生理教室ノ研究ニヨリテ經濟的價值ヲ高メ遂ニ四乃至五時間精液遠距離輸送試験ニ成功シ然モ

尙、經濟的價值ヲ有スルニ到レルモノナリ。同術ハ尙、優種學ヨリ見テ重大ナル意義果アルヤ必セリ。

二。人ニ於ケル人工受胎術ノ成功率ハ現今ニテハ一〇%ニ過ギザルモ、同法ノ改良ハ二三年前ニ初テ世界ノ注意ヲ集メタルモノナレハ、近キ將來ニ於テ急劇ニ成功率ヲ増加ス可ク、少クトモ天然受胎率ノ九〇%ニ相當ス可キ成功率ヲ得ルニ到ル可シ。現今、不妊症ノ全數ニ該法ヲ實施シタリトセハ、人工受胎率ヲ一〇%高メ得ベク、同術ノ發達スルニ從ヒ受胎率ヲ七乃至八%増加シ得可シ。思フニ同法ノ發達セル時期ニ到レハ、實際ニ不妊者ニ應用シ得ル範圍ニ於テ、受胎總數ノ一%内外ノ受胎率ヲ増加シ得ルコト容易ナル可シ。現今ノ如キ人工受胎術ノ成功率ニテモ、該術ハ佛國ノ如キ特別ノ邦家ニ對シテハまるさす主義或ハ新まるさす主義ニ關シテ或意義ヲ有スルガ如シトイフモノアリ。

三。まるさす人口論ハ生物學ノ發達セル以前ニ於テ既ニ、經濟學上ノ問題トナリ生物學コトニ生理學上ノ諸種ノ問題ヲ產ムニ到レルモ、實ハまるさすノ主張ハ生理學又ハ生理學的心理学ヨリ出發セル經濟論ニシテ、換言スレバ同學說ハ生理學廣義ト經濟學トノ中間產物ト見做シテ可ナリ。四。醫學ハ諸種ノ治療法・豫防法ヲ講ジテ人口増加ヲ急劇ナラシメ、まるさす人口論ニ關スル諸種ノ經濟問題ヲ惹起スルモ、之等經濟學上ノ諸問題ヲ救済スル術策モ亦、多クハ醫學殊ニ生理學ノ智識ニ因ルモノトス。